

～市長からのメッセージ～



市制89周年を迎える半田の歴史

半田市は昭和12年に半田町、成岩町、亀崎町が合併し、県下では6番目、知多半島では最初に市制施行を行った都市であり、今年10月1日に市制89周年を迎えます。この機会に、私が市民のみなさんにぜひ知っていただきたい半田の歴史があります。

明治天皇の半田への行幸

明治23年、愛知県下で我が国最初となる「陸海軍連合大演習」が行われました。この大演習には明治天皇が行幸され、皇族、政府高官、軍の首脳らも半田を訪れています。

明治天皇は、武豊沖で海上演習を統監された後、列車で半田駅に到着し、下半田の小栗富次郎邸に置かれた半田大本営に宿泊されました。翌日は、悪天候の中、乙川や雁宿の丘などを巡り、陸戦演習を統監されました。当時の官報にも、その様子が記されています。

この日、乙川では、土砂降りの雨の中で道に迷われた明治天皇を、地元の^{にいみとくさぶろう}新美徳三郎が白山社まで案内し、茶を差し上げたという出来事が、地域に語り継がれています。

なぜ半田が選ばれたのか

なぜ、これほど大規模な演習の地に半田が選ばれたのでしょうか。

実は、知多半島が軍事上重要な位置にあったことに加え、当時の半田には、交通や産業の発展だけでなく、多くの人々を受け入れ、地域全体で支えることができる「まちの力」がありました。

実際に、当時の有力者の家屋が宿舎として割り当てられ、食料や物資などが地域から供給されました。

この大演習は、当時の半田が産業や交通の拠点として発展し、それを地域全体で支える力を持っていたことを物語っています。

今もまちに残る歴史

現在も、雁宿公園には明治天皇ゆかりの碑が残り、乙川白山公園にも、明治35年に建立された「^{ちゅうひつぎよし}駐蹕御趾」(勝海舟の筆)の碑があるなど、まちなかでこの歴史の一端に触れることができます。

このように明治天皇の半田市訪問のエピソードが今もまちに残り、語り継がれていることこそ、半田の歴史と文化の豊かさではないでしょうか。市制の節目に、ぜひみなさんも半田の歴史に触れ、その魅力を改めて感じていただければ幸いです。一人ひとりのふるさとへの思いが、これからの半田を創る力になることを願っています。そして、この誇るべき歴史を、次の世代へともにつないでまいりましょう。

半田市長 久世 寿宏